

稲垣 範子 氏の学位審査結果の要旨

主査：加藤 令子

副査：近藤 麻理、水野 敏子

本研究は、クリティカルケア領域で治療選択が必要な重症心不全患者への看護師による意思決定支援について、稲垣（2020）の調査で急性・重症患者看護専門看護師から得られた結果を再分析し、1. クリティカルケア領域で治療選択が必要となる重症心不全患者の特性、2. クリティカルケア看護師が担う意思決定支援における役割、を明らかにし意思決定支援の枠組みの示唆を得ることを目的としている。

本研究協力者は、重症心不全患者への診療を行う病院で勤務する急性・重症患者看護専門看護師 10 名であり、インタビュー調査内容を質的統合法（KJ 法）で分析した。その結果、「患者の特性」はラベル 108 枚での統合分析の結果、【不確かさの中での苦渋の選択】【緊迫した関係】【決断を通して揺らぐ感情】【悪化する病状への対処の難しさ】【実現や推定が困難な患者の意思】【地域社会での療養を叶える難しさ】の 6 つに集約された。「看護師の役割」はラベル 111 枚を分析の結果、【探求】【パートナーシップ】【権利擁護】【状況アセスメント】【仲介】【共創】の 6 つに集約され、患者の特性に応じた看護師による意思決定支援の枠組みが明らかとなった。

審査では、本研究のベースとなった副論文との関係、研究協力者の勤務施設の特性からの結果への影響、シェアード・ディシジョンメイキングが対象とする範囲、提示されたローデータの妥当性、本研究の新規性への質疑応答が行われ、適切な回答であった。また、論文構成や記載方法への助言を行い、論文最終提出期限内での修正が可能と判断した。

以上の内容から審査委員会は、本論文を重症心不全患者の特性に応じたクリティカルケア看護師の意思決定支援の発展に貢献できる有用な研究成果が見出されており、学術的発展性があるものと評価した。

本論文は博士（看護学）の学位論文として価値があるものと認める。